
宮崎県埋蔵文化財センター一年報

第 2 5 号

令 和 2

(2 0 2 0)

年 度

2 0 2 1

序

本書は、宮崎県埋蔵文化財センターの概要と令和2年度に実施した諸事業についてまとめたものです。

当センターは、昭和57年（1982年）10月、宮崎市神宮の地に宮崎県総合博物館埋蔵文化財センターとして発足して以来、国・県・西日本高速道路株式会社等の実施する各種開発事業に伴う発掘調査を行うとともに、出土遺物の整理、保管を行ってきました。また、明らかになった郷土に関することがらをテーマ展示や出前展示、報告会等によって県民の皆様の郷土への理解に役立てるなど、埋蔵文化財の保護と活用、教育普及活動に取り組んでいるところです。

令和2年度は、都城市山之口町において県立陸上競技場建設に伴う2遺跡、都城市と西都市において県道整備事業に伴う3遺跡の合計5遺跡において発掘調査を行うとともに、現地調査が終了した6遺跡の資料について整理作業を実施し、このうち3遺跡について報告書を刊行しました。また、令和2年度から3か年計画で県内の西南戦争関連遺跡の文献調査や悉皆・測量調査などを行う「近代宮崎を知る・つなぐ～西南戦争関連遺跡総合調査～」を実施しています。

普及活動に関しては、新型コロナウイルス感染症の影響で延期や中止となったイベントもありましたが、対策をとりつつできる限りの取り組みを行いました。平成30年度から実施し終年を迎える移動展示会「土器と石器がやってきた！埋蔵文化財講座「ここまでわかったひむかの歴史」、当センター事業を紹介する施設公開、これまでの発掘調査の成果紹介を行う「遺跡発掘成果展2020」などを開催し、郷土の文化遺産である埋蔵文化財を多くの方々に知っていただくための機会の提供に努めたところです。

今後も、県民の皆様に郷土の歴史をより身近なものと感じていただけるよう、職員が一丸となり業務に取り組んで参りますので、関係各位の御理解と御協力をお願いいたします。

令和3年5月

宮崎県埋蔵文化財センター
所長 菊村祐司

目 次

I	組織・施設	1
1	組織	1
2	施設	2
II	埋蔵文化財センターの沿革	3
III	令和2年度の活動状況	5
1	埋蔵文化財記録保存のための発掘調査	5
(1)	発掘調査	5
(2)	発掘調査に伴う調査指導及び職員の資料調査	6
(3)	出土遺物等整理及び発掘調査報告書の刊行	6
(4)	近代宮崎を知る・つなぐ～西南戦争関連遺跡総合調査～ (文化庁補助事業)	7
(5)	保存処理	8
(6)	収蔵整理	9
2	教育普及活動	9
(1)	移動展示会『土器と石器がやってきた！埋文セレクション』事業 (文化庁補助事業)	10
(2)	埋蔵文化財講座「ここまでわかったひむかの歴史」	10
(3)	埋文センター施設公開・体験講座	11
(4)	遺跡発掘成果展2020・遺跡発掘速報会	11
(5)	分館テーマ展示	12
(6)	出前展示	12
(7)	出前講座	12
(8)	現地説明会・調査報告会など	12
(9)	見学・研修等で訪れた団体およびインターンシップ・職場体験の受け入れ	13
(10)	資料等の提供	13
(11)	職員派遣	16
(12)	埋蔵文化財担当専門職員研修会	17
(13)	広報出版物	17
(14)	ホームページ	17
3	会議・職員研修	18
(1)	各種会議等への参加	18
(2)	共同研究への参加	18
(3)	労働安全衛生関係の講習会等への参加	18
IV	宮崎県埋蔵文化財センター管理規則	19

2 施設

(1) 本館 (宮崎市佐土原町下那珂4019)

本館 2,656,50 m²

①管理棟・調査研究棟 (鉄筋コンクリート造一部木造平屋建) 1,745.99 m²

事務室	57.76 m ²
所長室	19.86 m ²
情報処理室	33.17 m ²
休憩室	78.52 m ²
調査研究室	248.55 m ²
復元整理室	293.44 m ²
一次処理室	96.81 m ²
図面整理室	61.62 m ²
写場	64.20 m ²
暗室	12.65 m ²
一次保管室 (2層)	188.00 m ²
図書室 (2層)	193.88 m ²
荷捌室	43.01 m ²
その他	276.00 m ²

②整理作業棟 (収蔵庫) (鉄骨造) 216.76 m²

③収蔵庫棟 (鉄骨造) 693.75 m²

(2) 分館 (宮崎市神宮2丁目4-4)

分館 (鉄筋コンクリート造2階建て) 1,652.38 m²

1階 877.58 m ²		2階 774.80 m ²	
一次処理室	121.20 m ²	写場・暗室	49.30 m ²
復元整理室	148.30 m ²	写真保管室	35.10 m ²
保存処理室	49.30 m ²	図面保管室	53.10 m ²
(鉄器	22.70 m ²)	収蔵整理室	19.30 m ²
(木器	26.60 m ²)	収蔵室	564.00 m ²
研修室	143.20 m ²	特別収蔵室	54.00 m ²
事務室	41.80 m ²		
展示室	150.00 m ²		
器材庫	11.00 m ²		
エントランスホール他	212.78 m ²		

Ⅱ 埋蔵文化財センターの沿革

西暦	年月日	事項
1980	昭55	「埋蔵文化財調査センター建設計画」立案
1981	56	基本設計を実施
1982	57. 1. 9 7. 29 10. 2	起工式 竣工 宮崎県総合博物館埋蔵文化財センターとして宮崎市神宮2丁目4-4に設置。 センター長吉田敏明（兼博物館副館長）以下本務職員2名（岩永哲夫、谷口武範）、兼務職員8名、嘱託2名発令。出土品等の整理保管と教育普及活動を行う。 開館記念講演「日本文化のふるさとをたずねて、東南アジアの旅から」 （講師：国立民族学博物館教授 佐々木高明）
1983	58. 4. 1	センター長細川達雄発令。本務職員を3名（茂山護、岩永哲夫、谷口武範）に増員する。
1984	59. 4. 1	（茂山護転出、菅付和樹転入）
1985	60. 11. 2	文化財保護強調週間の行事として施設公開を初めて行う。
1986	61. 4. 1 61. 7	センター長久徳菊雄発令。兼務職員7名になる。 毎月第4土曜日の映写会「遺跡をたずねて」を始める。
1987	62. 3 62. 4	埋蔵文化財調査研究報告第1集「陣内第2遺跡、蓮ヶ池横穴墓群一遺物編」刊行。 埋蔵文化財講座を始める。
1988	63. 3 63. 4. 1	埋蔵文化財調査研究報告第2集「下那珂貝塚」刊行 センター長長友巖発令。本務職員1名（菅付和樹）、兼務職員9名となる。
1989	平1. 4. 1	センター長石井祥博発令。本務職員1名（永友良典）、兼務職員11名となる。
1990	2. 3 4. 1	埋蔵文化財調査研究報告第3集「下北方古墳一遺物編」刊行。 兼務職員13名となる。
1991	3. 3 4. 1	埋蔵文化財調査研究報告第4集「下弓田遺跡一資料編1」刊行。 センター長木幡文夫発令。設備充実の一環として、軟X線撮影装置等を導入する。
1992	4. 4. 1	センター長藤崎景二発令。 埋蔵文化財センター開設10周年記念企画展「宮崎の埋文情報展'82～'91」を開催する。 脱塩装置、赤外線TVカメラシステム等を導入する。
1993	5. 4. 1 9. 15	センター長後藤健志発令。本務職員1名（長津宗重）、兼務職員15名となる。 空調設備増設
1994	6. 3. 8	特別収蔵庫設置
1995	7. 1. 29 2. 16 4. 1	一般収蔵庫増設工事完成 屋根防水工事完了 センター長関屋清志発令。本務職員1名（長津宗重）、兼務職員24名となる。 県文化課埋蔵文化財第二係（調査部門）を埋蔵文化財センターに置く。
1996	8. 4. 1	宮崎県埋蔵文化財センターとして総合博物館から分離独立し、庶務係、調査第一係、第二係、教育普及係（第二係兼務）を置く。 所長藤本健一以下職員37名、嘱託1名発令。 鶴島分室（旧婦人相談所：宮崎市鶴島2丁目11-25）を設置し、調査第一係（東九州自動車道担当）を置く。
1997	9. 3. 17 4. 1	分室を国富（旧国富農業改良普及センター：国富町大字本庄4777-2）に移転する。 職員37名、嘱託7名となる。
1998	10. 4. 1	所長田中守発令。職員39名、嘱託8名となる。
1999	11. 4. 1	職員42名、嘱託8名となる。
2000	12. 1. 20 4. 1	佐土原町に新館が完成し、国富分室を統合廃止する。神宮の旧本館を分館とする。 所長矢野剛発令。課制となり、総務課、調査第一課、調査第二課、普及資料課を置く。 職員52名、非常勤職員12名となる。分館（研修室、事務室、図面保管室、写真保管室）改築工事完成
2001	13. 4. 1 7. 1	職員59名、非常勤16名となる。 調査第一課調査研究室設置
2002	14. 4. 1	所長米良弘康発令。職員63名、非常勤職員17名となる。
2003	15. 4. 1	職員64名、非常勤15名となる。
2004	16. 4. 1	所長宮園淳一発令。職員62名（うち任期付き職員13名）、非常勤職員12名となる。 収蔵庫用に旧繭検定工場を農政企画課から所管換え。

西暦	年月日	事項
2005	17. 3. 8 4. 1 8. 18 11. 16	収蔵第一期工事完成。 職員61名（うち任期付き職員19名）、非常勤職員9名となる。 収蔵第二期工事完成。 調査一課整理棟の設置。（東畦原整理作業棟撤去に伴い貸借開始）
2006	18. 4. 1	所長清野勉発令。職員 64 名（うち任期付き職員 18 名）、非常勤職員 8 名となる。
2007	19. 6. 1	職員 64 名（うち任期付き職員 19 名）、非常勤職員 3 名となる。
2008	20. 4. 1	所長福永展幸発令。職員 61 名（うち任期付き職員 16 名）、非常勤職員 2 名となる。調査第一課整理棟撤去。
2009	21. 4. 1	職員 59 名（うち任期付き職員 18 名）、非常勤職員 1 名となる。
2010	22. 4. 1	所長森隆茂発令。職員 62 名（うち任期付き職員 18 名）、非常勤職員 1 名となる。
2011	23. 4. 1	職員 53 名（うち任期付き職員 15 名）、非常勤職員 1 名となる。
2012	24. 4. 1	所長北郷泰道発令。職員 42 名（うち任期付き職員 7 名）、非常勤職員 1 名となる。10 月より東日本大震災復興支援で宮城県へ松本茂を派遣。
2013	25. 4. 1 10. 12 ～ 12. 8	所長向井大蔵発令。職員 31 名、非常勤職員 1 名となる。引き続き東日本大震災復興支援で、宮城県へ和田理啓を派遣。 特別展『みやざき発掘 100 年—いこしえの「道」と交流』開催
2014	26. 4. 1	所長岩切隆志発令。職員 28 名、非常勤職員 1 名となる。調査第一課と調査第二課を統合し、調査課を置く。東日本大震災復興支援で宮城県へ和田理啓を派遣(2年目)。
2015	27. 4. 1	東日本大震災復興支援で宮城県へ和田理啓を派遣(3年目)。本年度で派遣終了。 移動展示会「ふるさと発掘！埋文キャラバン」事業でアウトリーチ活動を展開。 旧調査第一課調査研究室撤去。
2016	28. 4. 1	所長谷口武範発令。10 月より非常勤職員 2 名となる。
2017	29. 4. 1	所長菅付和樹発令。職員 29 名、非常勤職員 3 名となる。平成 28 年熊本地震復興支援で加藤徹を熊本市に派遣。
2018	30. 4. 1	所長長峯勝志発令。職員 30 名、非常勤職員 3 名となる。平成 28 年熊本地震復興支援で沖野誠を熊本市に派遣。
2019	31. 4. 1	所長山元高光発令。職員 31 名、非常勤職員 1 名となる。平成 28 年熊本地震復興支援で沖野誠を熊本市に派遣(2年目)。
2020	令 2. 4. 1	職員 31 名、会計年度任用職員 2 名となる。平成 28 年熊本地震復興支援で沖野誠を益城町に派遣。
2021	令 3. 4. 1	所長菊村祐司発令。職員 31 名、会計年度任用職員 2 名となる。

Ⅲ 令和2年度の活動状況

埋蔵文化財センターは次に掲げる業務を行っている。

- 1 埋蔵文化財の調査研究
- 2 出土品その他の資料の保存及び活用
- 3 埋蔵文化財の調査研究に係る図書その他の資料の整備
- 4 埋蔵文化財関係者の専門的・技術的な研修及び指導
- 5 埋蔵文化財保護思想の普及及び啓発

令和2年度は以下に記載する事業を実施した。

1 埋蔵文化財記録保存のための発掘調査

(1) 発掘調査

国・県事業に伴う試掘・確認調査及び発掘調査を実施している。本年度は瀬口遺跡（都城市）、串木遺跡（西都市）、山城城跡・串木遺跡（西都市）、花木池平遺跡（都城市）、上平遺跡（都城市）の5か所で本調査を実施した。

【発掘調査一覧】

	遺跡名	所在地	主な時代	主な遺構	主な遺物	調査期間	調査面積	調査担当者	調査原因
1	瀬口遺跡	都城市高崎町大字笛水	縄文時代	集石遺構、土坑	縄文土器、石器	R2. 6. 15 ～ R2. 10. 8 (実調査日数61日)	200 m ²	大竹進太郎 平井祥蔵 江藤建輔	県道都城野尻線(椎屋工区)道路改良工事
2	山城城跡・串木遺跡	西都市大字穂北	縄文時代・古墳時代・中世・近代	集石遺構、土坑、溝、竪穴建物	縄文土器、石器、土師器、須恵器、黒色土器	R2. 8. 17 ～ R3. 1. 12 (実調査日数77日)	610 m ²	橋本英俊 石塚啓祐	県道杉安高鍋線(山城工区)道路改良工事
3	串木遺跡	西都市大字穂北	縄文時代・古墳時代・古代	集石遺構、土坑、竪穴建物跡、土壙墓	縄文土器、石器、土師器、黒色土器	R2. 9. 25 ～ R2. 12. 15 (実調査日数51日)	210 m ²	大竹進太郎 江藤建輔	県道杉安高鍋線(山城工区)歩道整備工事
4	花木池平遺跡(二次)	都城市山之口町花木	縄文時代・古墳時代・古代	竪穴建物跡、溝、水田	縄文土器、石器、土師器、須恵器	R2. 4. 15 ～ R2. 8. 21 (実調査日数72日)	3,800 m ²	古川 誠 石塚啓祐	県有体育施設整備事業(陸上競技場)建設工事

	遺跡名	所在地	主な時代	主な遺構	主な遺物	調査期間	調査面積	調査担当者	調査原因
5	上平遺跡 (2次)	都城市山 之口町山 之口	縄文時代・ 古墳時代	集石遺構、 炉穴、陥 穴、地下式 横穴墓、土 壙墓	縄文土器、 石器、鉄 剣、鉄刀、 鉄鏃、刀子	R2. 5. 18) R2. 12. 23 (実調査日 数 133 日)	6,000 m ²	二宮満夫 吉行真人	県有体育施 設整備事業 (陸上競技 場) 建設工事

(2) 発掘調査に伴う調査指導及び職員の資料調査

慎重な比較検討を要する遺跡の調査を実施するにあたって、調査方法等の指導を受けるため各分野の研究者を招聘している。また、職員を派遣し、位置づけの明確でない遺構や遺物について調査を行うものである。

【調査指導】

日 程	場所 (遺跡)	所属・氏名	指導内容
令和2年6月12日	上平遺跡	鹿児島女子短期大学 教授 竹中正巳氏	地下式横穴墓出土人骨の取上げ
令和2年11月17日～19日	鳥川台場等	元大分県埋蔵文化財センター 高橋信武氏	遺構や遺物の見方、とらえ方等に ついて

【資料調査】

日 程	出張先	出張者	目 的
令和2年度は実施せず	—	—	—

(3) 出土遺物等整理及び発掘調査報告書の刊行

埋蔵文化財センターでは、発掘調査で出土した遺物等の水洗、注記から実測、製図までの整理を行い、発掘調査報告書を作成している。本年度整理を実施した遺跡は6遺跡で、内訳は地域高規格道路事業2遺跡、歩道整備事業1遺跡、県道改良事業1遺跡、県有体育施設整備事業2遺跡である。なお、本年度は整理作業の終了した3遺跡について発掘調査報告書を刊行した。

【出土遺物等整理対象遺跡一覧】

遺跡名	事業名	事業者
保木島遺跡	県道飯野松山都城線(都城志布志道路)金御岳工区	県土整備部都城土木事務所
小迫遺跡		
竹下第2遺跡	国道218号(貝の畑工区)歩道整備事業	県土整備部延岡土木事務所
瀬口遺跡	県道都城野尻線(椎屋工区)改良工事	県土整備部都城土木事務所
花木池平遺跡	県有体育施設整備事業(陸上競技場)建設工事	総合政策部国民スポーツ大会準備課
上平遺跡		

【発掘調査報告書刊行一覧】

No.	報告書名	副書名	執筆・編集者
256	竹下第2遺跡	国道218号（貝の畑工区）歩道整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書	和田理啓
257	小迫遺跡	県道飯野松山都城線（都城志布志道路）金御岳工区道路整備工事3	今塩屋毅行
258	保木島遺跡	県道飯野松山都城線（都城志布志道路）金御岳工区道路整備工事4	宇和田幹彦

（4）近代宮崎を知る・つなぐ～西南戦争関連遺跡総合調査～（文化庁補助事業）

今年度から3か年事業で本県の西南戦争（明治10年、1877年）関連遺跡の所在地や現況の把握と、今後の保存・活用を進めていくうえで必要な情報の収集を目的として、台場等の基礎的調査（文献調査や悉皆調査等）や重要な遺跡を対象とした測量調査を実施している。

また調査成果については、県民の理解を深めるため、移動展示会『土器と石器がやってきた！埋文セレクション』（日向市役所市民ホール）で展示をする等、教育普及活動も行っている。

① 西南戦争関連遺跡の悉皆調査

令和2年度は、台場301基（うち10基は大分県）と7墓地326基の悉皆調査を行った。

【悉皆調査一覧（台場）】

市町村名	台場名	基数	調査担当者
日之影町	日之影新町台場群、舟の尾台場群、高松台場群、大山台場群、高塚山台場群、阿下台場、椀木台場群、大楠台場群、矢形的台場群、杉の原台場、千本杉台場群、楠原台場群、山師峠台場群	73	日高広人 黒木俊彦 谷口至
延岡市	内谷峯台場群、大原越台場群、大井東台場群、陣ヶ峰北台場群、陣ヶ峰西台場、楠八重台場、猿渡台場群、椎畑台場、菅原台場群、上崎台場、瀬越台場群	87 (大分県10)	ほか
日向市	美三ヶ辻台場群、牧島山台場、笹尾台場群、余瀬台場群、鹿場台場群、権現崎台場群、幸脇(桐ノ陣)台場群、美々津新町台場、梶木台場、柿ノ木田越台場群、崎山台場、鳥川台場群、福瀬松ノ下台場、飯谷台場群、蕨野台場群、竹ノ本台場群	97	
美郷町	万寿峠台場、田代台場群	4	
綾町	尾立台場群、中尾台場群	22	
小林市	勝負台場群、岩牟礼城跡台場群	18	

【悉皆調査一覧（墓地）】

市町村名	墓 地 名	基 数	調査担当者
延岡市	薩摩兵士の墓(荒平・椎畑)	2	日高広人 黒木俊彦 谷口至 ほか
日向市	細島官軍墓地、薩軍兵士の墓、西郷南洲翁家来の墓	321	
美郷町	西南の役戦没者の墓	2	
宮崎市	合葬墓	1	

② 西南戦争関連遺跡の測量調査

令和2年度は、以下の台場の測量調査を実施した。

【測量調査一覧】

	遺跡名	所在地	主な時代	主な遺構	調査期間	調査面積	調査担当者
1	鳥川台場群 3～9・11・12号	日向市東郷 町山陰竹ノ 本乙	近代	—	R2. 10. 12～R3. 2. 28 (測量委託を含む)	—	日高広人 黒木俊彦 谷口至 ほか
2	笹尾台場群 30・31号	日向市美々 津町堂面木	近代	—	R2. 11. 25～12. 2 (実調査日数3日)	—	
3	菅原台場群 1号	延岡市北方 町菅原未	近代	—	R2. 12. 22	—	
4	猿渡台場群 1～3号	延岡市北方 町早上巳	近代	—	R2. 12. 22	—	
5	牧島山台場	日向市日知 屋畑浦	近世 ～近代	—	R3. 1. 15～2. 19 (実調査日数15日)	—	
6	大山台場群 2号	日之影町分 城大山	近代	—	R3. 2. 16、2. 22	—	
7	内谷峯台場群 29号	延岡市須佐 町	近代	—	R3. 2. 23	—	
8	田代台場群 2号	美郷町西郷 田代	近代	—	R3. 3. 8	—	

(5) 保存処理

普及資料課及び調査課では、出土した金属製品や木製品について保存処理を行っている。本年度は6遺跡の鉄器44点の処理を行った。

鉄器保存処理実施の遺跡

遺跡名	主な器種	保存処理
串木遺跡、岩牟礼城跡台場、鳥川台場、鹿場台場、柿ノ木田越台場、美三ヶ辻台場	刀子、薬莖、銃弾など	土落とし、仮接合まで実施

(6) 収蔵整理

① 収蔵庫（分館）

分館収蔵庫には、登録を完了した遺物や登録作業途中・待機中の遺物を収蔵している。令和2年度は、登録作業により58箱の圧縮となった。

② 収蔵庫（本館）

新収蔵庫には、主に本館で整理事業の終了した遺物や登録待機遺物を収蔵している。令和2年度は、コンテナ308箱を搬入し、コンテナ15,615箱の収蔵量となった。

③ 登録作業

分館における令和2年度の実績は22遺跡、コンテナ186箱である。登録累計289遺跡、コンテナ7,200箱となった。本館における同年度の実績は3遺跡、コンテナ169箱であり、登録累計108遺跡、コンテナ3,781箱となった。よって、令和2年度の本館と分館を合わせた登録収蔵総累計は、397遺跡、コンテナ10,981箱である。

④ 図書資料

全国から送られてくる発掘調査等の報告書や購入書籍・雑誌類を図書室に集架している。令和2年度は1,627冊の受け入れがあり、合計収蔵数は83,506冊になる。図書管理システムによる図書資料の登録と、バーコードによる貸出・返却管理を行っている。

2 教育普及活動

令和2年度の教育普及事業は、文化庁の補助事業として平成30年度から令和2年度までの3か年で行う移動展示会「土器と石器がやってきた！埋文セレクション」を主要事業として実施した。埋蔵文化財講座「ここまでわかったひむかの歴史」は第3日曜日開催で年6回実施予定であったが、新型コロナウイルス感染防止のため、2回を中止した。「施設公開」を文化財保護強調週間中の11月3日に分館で行った。発掘調査の成果を公開する分館の常設展示では、埋文講座の関連展示など、テーマ展示を年間3回実施し、常設展示の更新につとめた。令和2年度の分館入館者は3,393名であった。



(1) 移動展示会『土器と石器がやってきた！埋文セレクション』事業（文化庁補助事業）

埋蔵文化財センターの業務紹介と時代ごとの解説や遺物の展示、セレクション講座や関連イベントの実施、「宮崎県の遺跡ガイドブック―県南編―」の作成・配布など、埋蔵文化財の保護を啓発するため県内の4会場で開催した。

- ① 名称： 移動展示会『土器と石器がやってきた！埋文セレクション』
- ② 主催： 宮崎県埋蔵文化財センター
- ③ 共催： 綾町教育委員会 高鍋町教育委員会 日向市・日向市教育委員会 都城市立図書館
- ④ 会場・会期： 綾てるは図書館 6月14日（日）
高鍋町歴史総合資料館 7月18日（土）～9月6日（日）
日向市役所市民ホール 10月22日（木）～11月23日（月）
都城市立図書館 2月8日（月）～2月28日（日）

⑤ 観覧者数

綾会場：130名 高鍋会場：97名 日向会場：7,352名 都城会場：2,955名
総数：10,789名（埋文セレクション関連講座参加者255名を含む）

⑥ 関連行事

各会場で体験講座（石器レプリカづくり、土器文様拓本体験、土器パズル）、講演、展示資料解説等を行った。

(ア) 綾会場 令和2年 6月14日（日） 参加者13名

(イ) 日向会場 令和2年 11月7日（日） 参加者242名



綾会場の展示



日向会場の体験講座



都城会場の展示

(2) 埋蔵文化財講座「ここまでわかったひむかの歴史」

近年、発掘調査報告書を刊行した遺跡の最終成果報告講座として、年6回（5・6・7・12・1・2月の第3日曜日）、午後1時30分から午後3時まで分館研修室で講演会を計画し、関連する遺物を展示して解説を行った。また、参加者を増やす取り組みとして早期の広報活動や、報告遺跡所在地周辺の学校・団体等への案内やチラシ配布、アンケートによる評価の考察、初心者にもわかりやすい資料の作成等に取り組み、合計で91名の参加者があった。今年度は新型コロナウイルス感染症対策のため2回中止となったが、動画での配信を行った。

開催日	講演名	講師	参加者
第1回 R2. 5. 17	「台地の上の中世道」 小松尾遺跡（都城市）	宮崎県埋蔵文化財センター 竹田享志	中止
第2回 R2. 6. 21	「都城市大浦の台地にもたらされた逸品」 大浦遺跡（都城市）	宮崎県埋蔵文化財センター 今塩屋毅行	16名
第3回 R2. 7. 19	「天ヶ峯の麓に生きた縄文人」 上高遺跡（都城市）	宮崎県埋蔵文化財センター 平井祥蔵	25名
第4回 R2. 12. 20	「横市川に生きる古代人の暮らし」 松下遺跡（都城市）	宮崎市立広瀬小学校 恵利武馬氏	18名
第5回 R3. 1. 17	「牧水の里の城」 坪谷城跡（日向市）	宮崎県埋蔵文化財センター 和田理啓	中止
第6回 R3. 2. 21	「台地に終のすみかを築き、低地に鋤をふるう」 塚原遺跡（国富町）	宮崎県埋蔵文化財センター 二宮満夫	32名

（3）埋文センター施設公開・体験講座

例年、埋蔵文化財センターの事業のPRと埋蔵文化財保護啓発の目的で「施設公開」を開催している。本年度は、文化財保護強調週間中の11月3日（祝・火）に、「埋文センターで考古学体験」と題して分館において開催した。

【施設公開「埋文センターで考古学体験」】

開催日	開催場所	内容	参加者
R2. 11. 3	埋蔵文化財センター分館	土器復元体験、土器拓本しおり体験、発掘疑似体験、石器レプリカ製作体験、ドングリつぶし体験、巨大須恵器と写真撮影、土器パズル等	402名



施設公開（土器拓本体験）



施設公開（石器レプリカ作り）



施設公開（ドングリつぶし体験）

（4）遺跡発掘成果展 2020・遺跡発掘速報会

埋蔵文化財センターが発掘調査を実施した、県南の遺跡の資料を展示する遺跡発掘成果展 2020 を、県総合博物館1階エントランスホールと分館展示室で開催した。

【遺跡発掘成果展 2020】

開催期間	開催場所	展示遺跡	参加者
R2. 9. 19 ～ R2. 10. 12	総合博物館 分館展示室	下那珂貝塚・下那珂遺跡、山崎上ノ原第 1・2 遺跡、山崎下ノ原第 1 遺跡、町屋敷遺跡、長菌原遺跡、余り田遺跡、曾井第 2 遺跡、白ケ野第 2・3 遺跡、竹ノ内遺跡、天神河内第 1・第 2 遺跡、熊野原遺跡、堂地西遺跡、山内石塔群、飢肥城下町遺跡、唐人町遺跡 (15 遺跡)	4, 897 名

【遺跡発掘速報会】

開催日	開催場所	報告遺跡	参加者
令和 2 年度 は実施せず	—	—	—

(5) 分館テーマ展示

分館の展示室において、埋蔵文化財センターがこれまでに発掘調査を行った遺跡について、遺跡ごとに出土遺物を紹介するテーマ展示を年 4 回行った。一部は埋蔵文化財講座や遺跡発掘速報展などの事業との連携を図って構成した。

(6) 出前展示

発掘調査で県内各地から出土した遺物などを各地域で展示し、発掘の成果を公開した。合わせて埋蔵文化財センターの業務内容についての紹介を行った。また、本年度も県高速道対策局関連のイベントに参加して遺物を展示紹介した。

	開催日	名 称	場 所	内 容	参加者
1	R3. 3. 28	都城志布志道路(末吉 IC ～金御岳 IC 間)開通記念 イベント	都城市立 梅北小学校	遺物展示・解説、「みやぎの埋蔵 文化財ハンドブック」「宮崎県の考 古遺跡ガイドブック」などの配布、 土器パズル	63 名

(7) 出前講座

埋蔵文化財センター職員が県内各地に出向いて、生涯学習団体や学校を対象とした出張講座を実施している。地域の歴史や遺物の展示・解説、遺物に触れる体験、埋蔵文化財センターの業務紹介等を行った。

	開催日	学校名・機関名	対 象	内 容	参加者
1	R2. 9. 5	生涯学習講座「かどっこ キャンパス」(門川町)	小学生	埋蔵文化財センターの紹介、門川町の 歴史について、遺物の説明・見学、体 験学習	14 名
2	R 2. 12. 5	広瀬西小校区地域づく り協議会	一般・小学生	埋蔵文化財センターの見学、体験講座	21 名

(8) 現地説明会・調査報告会など

例年は発掘調査中の現場を県民の方に見学していただく遺跡の現地説明会や、発掘調査が終了した遺跡について、その成果を紹介するための報告会などを開催している。

【現地説明会】

	開催日	遺跡名	開催地	内 容	参加者
1	R2. 11. 8	上平遺跡	都城市	遺跡の概要、遺跡内の遺構・遺物の説明	92名

【調査報告会】

	開催日	遺跡名	開催地	内 容	参加者
1	令和2年度は実施せず	—	—	—	—

(9) 見学・研修等で訪れた団体およびインターンシップ・職場体験の受け入れ

	実施日	場 所	団体名	内 容	人 数
1	R2. 10. 1	埋蔵文化財センター分館	都城市立祝吉小学校6年生	展示見学	22名
2	R2. 10. 16	埋蔵文化財センター分館	延岡市立恒富小学校4年生	展示見学	38名
3	R2. 10. 17	埋蔵文化財センター分館	宮崎地質研究会	研修	7名
4	R2. 10. 23	埋蔵文化財センター分館	延岡市史編さん会議	研修	11名
5	R2. 10. 29	埋蔵文化財センター分館	延岡市立岡富小学校6年生	展示見学	73名
6	R2. 10. 30	埋蔵文化財センター分館	宮崎市立加納小学校3年生	展示見学	167名
7	R2. 10. 30	埋蔵文化財センター分館	日向市立塩見小学校4年生	展示見学	18名
8	R2. 10. 30	埋蔵文化財センター分館	宮崎市立広瀬小学校5年生	展示見学	109名
9	R2. 10. 31	埋蔵文化財センター分館	神楽演出演者	研修	18名
10	R2. 11. 8	埋蔵文化財センター分館	宮崎大学学芸員課程	展示見学・研修	22名
11	R2. 11. 18	埋蔵文化財センター分館	日南市立油津小学校6年生	展示見学	19名
12	R2. 11. 21	埋蔵文化財センター分館	宮崎地質研究会	研修	10名
13	R2. 11. 26	埋蔵文化財センター分館	国富町森永小学校6年生	展示見学	26名
14	R3. 2. 27	埋蔵文化財センター分館	宮崎地質研究会	研修	8名
15	R3. 3. 14	埋蔵文化財センター分館	宮崎民俗学会	研修	4名

(10) 資料等の提供

埋蔵文化財センターでは、一般や公共機関、研究機関、研究者の利用希望に応じて、可能な限り資料を提供している。資料提供には資料調査等に係る館内利用（資料の閲覧・実測等）や館外貸出及び掲載許可申請があり、令和2年度は館内利用8件、館外貸出14件、掲載許可8件であった。

【館内利用】

	遺跡名・利用資料名	利用目的	利用日
1	高鍋城跡、西下本庄遺跡、南平第3遺跡、本城跡、池島遺跡、前ノ田村上第1遺跡、林遺跡、櫛間城跡 [陶磁器]	資料調査	R2. 5. 13
2	百塚原古墳群 [須恵器、土師器]	資料調査	R2. 9. 4
3	山田遺跡、赤木遺跡第8地点(二次調査)、朝草原遺跡、塚原遺跡、唐木戸第4遺跡、阿蘇原上遺跡、平底第2遺跡、駄小屋遺跡、野首第2遺跡、白ヶ野第2・第3遺跡 [石器]	資料調査	R2. 11. 10

	遺跡名・利用資料名	利用目的	利用日
4	宮ノ東遺跡、山崎上ノ原第1・第2遺跡 [土師器]	資料調査	R2. 12. 4, 5
5	宮ノ東遺跡、野首第2遺跡 [石器・土器]	資料調査	R2. 12. 4
6	平畑遺跡、学頭遺跡、田代ヶ八重遺跡、荒迫遺跡、上の原第1遺跡、竹ノ内遺跡、虎崩・榎木田遺跡、塚原遺跡、白ヶ野第2・第3遺跡、上ノ原遺跡、別府原遺跡、春日地区第2地点、唐木戸第4遺跡、野首第1Ⅱ遺跡、尾立第2(朝倉)遺跡、野首第2遺跡、尾花A遺跡、内野々第4遺跡、岡遺跡(第7次)、岡遺跡(第13次)、塚原Ⅱ遺跡G・H・I・J地点、保木島遺跡 [土器・土製品・石器・玉類]	資料調査	R3. 3. 11
7	西下本庄遺跡、下耳切第3遺跡、上ノ原第2遺跡Ⅱ [土師器]	資料調査	R3. 3. 11～14
8	祇園原古墳群、新田原古墳群、木花6号古墳、竹淵C遺跡、西ノ別府遺跡 [埴輪]	資料調査	R3. 3. 8, 9, 11, 16～19, 22, 23

【館外貸出】

	貸出資料名	数量	目的	期間	貸出機関名
1	野添遺跡 [ササゲ属種子炭化物・栗種子炭化物]	30	文化交流展示「海の道、アジアの路」(平常展)に展示	R2. 4. 1 } R3. 3. 31	九州国立博物館
2	山口遺跡 [須恵器]、平峰遺跡 (3次) [陶質土器]、西下本庄遺跡 [須恵器・土師器]、野首第1遺跡 [須恵器]	13	令和2年度企画展I「古窯のはなし～古代日向の須恵器生産～」に展示	R2. 4. 15 } R2. 6. 26	西都原考古博物館
3	堂地東遺跡 [凹線文壺型土器]、学習キット内 [旧石器～剥片尖頭器・角錐状石器・ナイフ形石器]	4	大学の講義で使用	R2. 5. 11 } R2. 5. 13	南九州大学 長津宗重氏
4	学習キット [旧石器・縄文・弥生・古墳]、ハンズオン資料 [土器片、石錘]	299	第6学年の授業で使用	R2. 5. 16 } R2. 5. 23	えびの市立岡元 小学校
5	学習キット [旧石器]	75	大学の講義で使用	R2. 5. 25 } R2. 5. 27	南九州大学 長津宗重氏
6	学習キット [縄文]	100	大学の講義で使用	R2. 6. 1 } R2. 6. 3	南九州大学 長津宗重氏

	貸出資料名	数量	目的	期間	貸出機関名
7	本城跡 [陶磁器]、池島遺跡 [陶磁器]、平原遺跡 [土師器]、八尾遺跡 [滑石製石鍋]、筆無遺跡 [土師器・陶磁器・滑石製石鍋]	25	令和2年度国際交流展「青がつなぐもの～高麗青磁と古代海洋交易～」に展示	R2. 6. 9 } R2. 9. 18	西都原考古博物館
8	学習キット [弥生]	43	大学の講義で使用	R2. 6. 15 } R2. 6. 17	南九州大学 長津宗重氏
9	平田遺跡 F 地点・G 地点 [弥生土器・石器・写真]、嫁坂遺跡 [縄文土器・石器]	23	令和2年度都城歴史資料館企画展「発掘速報展 みやこんじょのお宝発掘！」に展示	R2. 6. 23 } R2. 10. 16	都城市教育委員会
10	学習キット [古墳]	21	大学の講義で使用	R2. 6. 29 } R2. 7. 1	南九州大学 長津宗重氏
11	学習キット [縄文・弥生・古墳]	164	第6学年の授業で使用	R2. 7. 19 } R2. 7. 26	西都市立徳北小学校
12	学習キット [旧石器]、大浦遺跡 [土師器・陶磁器]	77	校内研修のため	R2. 8. 1 } R2. 8. 6	宮崎市立宮崎東小学校
13	百塚原古墳群 [須恵器・土師器]	17	令和2年度特別展「国宝馬具とその時代」に展示	R2. 9. 23 } R2. 12. 18	西都原考古博物館
14	山田遺跡・中ノ迫第1遺跡(二次)・朝草原遺跡・唐木戸第4遺跡・塚原遺跡・阿蘇原上遺跡・平底第2遺跡・駄小屋遺跡・白ヶ野第2・第3遺跡・野首第2遺跡・[石器]、学頭遺跡・野首第2遺跡 [玉類]	90	令和2年度企画展Ⅱ「古の匠たち～考古資料に見る技巧と造形美～」に展示	R2. 12. 22 } R3. 3. 26	西都原考古博物館

【刊行物等掲載（写真等資料提供）】

	資料名	掲載刊行物等	依頼者	申請日
1	諸麦遺跡 [土層断面]	令和2年度都城歴史資料館企画展「発掘速報展 みやこんじょのお宝発掘！」ポスター・チラシ	都城市教育委員会	R2. 5. 20

	資料名	掲載刊行物等	依頼者	申請日
2	池内横穴墓群 [A1～A4 号墓 近景]	大宮地域まちづくり推進委員会刊行「小学生版 大宮の歴史探訪」	大宮地域まちづくり推進委員会	R2. 6. 22
3	尾花 A 遺跡 [尾花 A 遺跡遠景・尾花 A 遺跡出土石斧・尾花 A 遺跡出土鉄器]、赤木遺跡第 8 地点(二次調査) [赤木遺跡全景]、赤木遺跡第 8 地点(一次調査) [赤木遺跡遺物出土状況・赤木遺跡図版 9・21 号集石遺構の配石状況]、下那珂遺跡 [下那珂遺跡遠景・下那珂遺跡出土虺龍文鏡]	学習支援サイト「全国子ども考古学教室」	NPO 法人むきばんだ応援団	R2. 7. 7
4	百塚原古墳群 [百塚原古墳群地下マップ、百塚原古墳群の立地(西都原古墳群を望む)、1 号墳全景(北西側から)、8 号墳出土遺物 1、SC4(馬埋葬土坑)出土遺物]	令和 2 年度特別展「国宝馬具とその時代」ポスター・チラシ、図録および展示解説文等	西都原考古博物館	R2. 8. 25
5	百塚原古墳群 [地中探査レーダーの様子、百塚原古墳群 8・9・12・38 号墳(平成 28 年度調査時)、1 号墳全景(北西側から)]	東京新聞・中日新聞の長期連載企画「よもやま邪馬台国」	株式会社粹書院	R2. 12. 2
6	大浦遺跡 [SM1 完掘状況]	令和 3 年 2 月号都城市報内コラム「ぼんちくと歴史探訪」	都城市教育委員会	R3. 1. 29
7	百塚原古墳群 [百塚原古墳群の立地(西都原古墳群を望む)]	発見・驚き・感動! 西都原考古博物館魅力向上事業に伴うバーチャルリアリティ(VR)体験プログラム	西都原考古博物館	R3. 2. 26
8	大島畠田遺跡 [裏表紙復元図]	五味文彦「武士論ー古代中世史から見直す」	株式会社 講談社	R3. 3. 10

(11) 職員派遣

市町村の教育委員会などに埋蔵文化財等の専門的・技術的な指導を行い、諸機関・団体主催講演会等の普及啓発行事にも職員を派遣している。

派遣期日	依頼者	内容	派遣職員
R2. 4. 24 R2. 6. 2	国民文化祭・障害者芸術文化祭課	「国文祭・芸文祭みやぎき 2020」 県実行委員会主催事業に関する事業協力	赤崎広志
R2. 6. 30	西都市教育委員会	日向国府総括報告書作成に関する事業協力	赤崎広志・東憲章
R2. 8. 25～10. 30	高鍋町教育委員会	高鍋町持田遺跡発掘調査に関する調査指導	東憲章・和田理啓・今塩屋穀行

派遣期日	依頼者	内容	派遣職員
R2. 9. 15～9. 17	埼玉県立さきたま史跡の博物館	西都原古墳群の現地視察と史跡整備に関する概要説明	東憲章
R2. 10. 10	高鍋町教育委員会	高鍋町持田遺跡現地説明会における概要説明	東憲章・和田理啓
R2. 10. 19	特定非営利法人 i さいと	西都原考古博物館ボランティアガイド館外研修での上平遺跡の現地説明	東憲章
R2. 12. 4～12. 6 R3. 3. 11～3. 14	北陸学院大学 教授 小林正史	科学研究費助成事業に伴う調査協力	今塩屋毅行
R3. 3. 9	県立西高附属中学校	校外学習における講師	松田清孝

(12) 埋蔵文化財担当専門職員研修会

埋蔵文化財センターでは、発掘調査技術等の向上をめざし、県及び市町村埋蔵文化財担当専門職員を対象とした研修を計画していたが、県独自の緊急事態宣言に伴い中止とした。

実施日	場 所	講 師	内 容	参加者数
R3. 2. 5 (中止)	埋蔵文化財センター 本館	宮崎県埋蔵文化財センター 赤崎広志	「黒曜石の産地推定～分類手法の検討と成果～」	—

(13) 広報出版物

埋蔵文化財センターの「年間行事案内」及び「埋文通信」の発行を行うとともに移動展示会、施設公開等についてもポスターやチラシ、資料等の作成を行った。

発行年・月	広報出版物
R2. 6	宮崎県埋蔵文化財センター 年報 第24号 令和元(2019)年度
R2. 6	移動展示会『土器と石器がやってきた！埋文セレクション！』関係 宮崎県の遺跡ガイドブック 県南編
R3. 3	令和3年度宮崎県埋蔵文化財センター 年間行事案内「EVENT CALENDAR」
R3. 3	宮崎県埋蔵文化財センター 通信 「ひむか」23号

(14) ホームページ

本年度は綾町、高鍋町、日向市、都城市における移動展示会「埋文セレクション」や分館での施設公開、埋蔵文化財講座、本館における整理作業員の募集など各種の広報にホームページを活用した。また、コロナ禍における来館者減少に対応するため、テーマ展示の情報や本発掘調査の情報も随時掲載するとともに、公式SNSと連携して情報発信の充実を図った。

3 会議・職員研修

(1) 各種会議等への参加

全国公立埋蔵文化財センター連絡協議会ほか主催の各種会議等に職員を派遣し、職員の資質向上と業務の円滑な推進を図っている。令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い会議、研修の中止が相次ぎ、オンラインでの開催されたものも複数あった。

日 程	内 容	開催地	出席者
R2. 7. 18	令和2年度宮崎県地方史研究連絡協議会総会・研修会	宮崎県宮崎市	山田洋一郎
R2. 8. 26	令和2年度第1回埋蔵文化財担当職員等講習会	オンライン	赤崎広志
R2. 10. 9	令和2年度宮崎県博物館等協議会研修会	宮崎県えびの市	谷口晴子
R3. 2. 3	令和2年度第2回埋蔵文化財担当職員等講習会	オンライン	田中敏雄 谷口晴子
R3. 3. 16	令和2年度埋蔵文化財保護対策等九州地区協議会	オンライン	和田理啓

(2) 共同研究への参加

所外の研究者や機関等が主催する共同研究へ職員が参加するものである。

日 程	内 容	参加者
令和2年度は該当者なし	—	—

(3) 労働安全衛生関係の講習会等への参加

発掘調査現場及びセンター内での安全衛生の増進を図るため、以下の各講習会へ参加している。

日 程	内 容	参加者
R2. 4. 23～4. 24	安全衛生推進者講習	江藤建輔・伊東浩二・石塚啓祐
R2. 5. 7	足場の組立等の特別教育	江藤建輔・伊東浩二・石塚啓祐
R2. 6. 12	救急救命講座（心肺蘇生法・AED操作法・応急手当）	鈴木勝代・阿波野ゆかり・池田隆之・黒木朋恵・江藤建輔・伊東浩二・石塚啓祐・平井祥蔵・谷口至・田中敏雄
R2. 6. 30	熱中症予防指導員・管理者研修	江藤建輔・伊東浩二・石塚啓祐

IV 宮崎県埋蔵文化財センター管理規則

平成 8 年 3 月 29 日
教育委員会規則第 5 号

改正

平成 12 年 1 月 20 日教育委員会規則第 1 号
平成 12 年 3 月 31 日教育委員会規則第 8 号
平成 12 年 12 月 18 日教育委員会規則第 21 号
平成 18 年 3 月 30 日教育委員会規則第 9 号
平成 19 年 3 月 30 日教育委員会規則第 3 号
平成 20 年 3 月 31 日教育委員会規則第 6 号
平成 26 年 3 月 27 日教育委員会規則第 2 号
令和 2 年 3 月 30 日教育委員会規則第 9 号
宮崎県埋蔵文化財センター管理規則をここに公布する。
宮崎県埋蔵文化財センター管理規則

(趣旨)

第 1 条 この規則は、別に定めるもののほか、宮崎県埋蔵文化財センター及び宮崎県埋蔵文化財センター分館（以下「埋蔵文化財センター」という。）の管理運営に関し必要な事項を定めるものとする。

(事業)

第 2 条 埋蔵文化財センターは、次に掲げる事業を行う。
(1) 埋蔵文化財の調査研究に関すること。
(2) 出土品その他の資料の保存及び活用に関すること。
(3) 埋蔵文化財の調査研究に係る図書その他の資料の整備に関すること。
(4) 埋蔵文化財関係者の専門的、技術的な研修及び指導に関すること。
(5) 埋蔵文化財保護思想の普及及び啓発に関すること。
(6) その他埋蔵文化財保護に必要な事業に関すること。

(組織)

第 3 条 埋蔵文化財センターに、次の課を置く。

総務課
調査課
普及資料課

(分掌事務)

第 4 条 前条に規定する各課の分掌事務は、次のとおりとする。

総務課
(1) 職員の人事、給与及び服務に関すること。
(2) 予算の執行及び決算に関すること。
(3) 文書の收受、発送及び保存に関すること。
(4) 公印の管守に関すること。
(5) 施設及び設備の管理に関すること。
(6) その他他の課の所管に属さない事項に関すること。
調査課
(1) 国、県関係事業に伴う埋蔵文化財の発掘調査に関すること。
(2) 東九州自動車道建設に伴う埋蔵文化財の発掘調査に関すること。
(3) 重要遺跡の発掘調査及び保護に関すること。
(4) 前 3 号の発掘調査に係る出土品その他の資料の整理に関すること。
(5) 第 1 号から第 3 号までの発掘調査に係る発掘調査報告書の作成等に関すること。
普及資料課
(1) 出土品の保存処理、修復、保存管理及び活用に関すること。
(2) 埋蔵文化財の調査研究に係る図書その他の資料の整備に関すること。
(3) 出土品その他の資料及び埋蔵文化財の調査研究に係る図書その他の資料（以下「資料等」という。）の貸出しに関すること。
(4) 埋蔵文化財関係者に対する専門的、技術的な研修及び指導に関すること。

(職及び職務)

第5条 埋蔵文化財センターに、次の表の左欄に掲げる職を置き、その職務は、それぞれ同表の右欄に掲げるとおりとする。

職	職務
所 長	所務を掌理し、所属職員を指揮監督する。
副 所 長 (2人)	所長を補佐し、所長に事故があるとき、又は所長が欠けたときは、その職務を代行する。
課 長	上司の命を受けて、課に属する事務を処理する。
専門主事	上司の命を受けて、専門的知識及び経験を必要とする事務に従事する。
主任主事	上司の命を受けて、複雑な事務に従事する。
主 事	上司の命を受けて、事務に従事する。

2 前項に規定する副所長の職務の担当区分は、1人を統括とし、他を業務担当とする。

3 第1項の規定により副所長が所長の職務を代行する順序は、次のとおりとする。

第1順位 統括の副所長

第2順位 業務担当の副所長

4 第1項に規定する職のほか、埋蔵文化財センターに、必要に応じ、次の表の左欄に掲げる職を置き、その職務は、それぞれ同表の右欄に掲げるとおりとする。

職	職務
副 参 事	上司の命を受けて、埋蔵文化財センターの特定の事務を掌理する。
主 幹	上司の命を受けて、埋蔵文化財センターの特定の事務を掌理する。
専門主幹	上司の命を受けて、専門的知識及び経験を必要とする埋蔵文化財センターの特定の事務を掌理する。
副 主 幹	上司の命を受けて、その相当高度の専門的業務に従事し、又は埋蔵文化財センターの特定の事務を掌理する。
主 査	上司の命を受けて、専門的業務に従事する。

(その他の職)

第6条 前条に規定する職のほか、必要に応じ、会計年度任用職員を置く。

2 会計年度任用職員は、上司の命を受けて、事務又は技術に従事する。

(開館時間等)

第7条 埋蔵文化財センターの開館時間は、午前9時から午後5時までとする。

2 埋蔵文化財センターの入館時間は、午前9時から午後4時30分までとする。

(休館日)

第8条 埋蔵文化財センターの休館日は、次のとおりとする。

区 分	休 館 日
宮崎県埋蔵文化財センター	1 土曜日及び日曜日
	2 国民の祝日に関する法律(昭和23年法律第178号)に規定する休日(以下「休日」という。)
	3 1月1日から1月4日まで及び12月28日から12月31日まで(休日を除く。)
	4 特別整理期間(あらかじめ所長が定めて公示する期間をいう。以下同じ。)
宮崎県埋蔵文化財センター 分館	1 月曜日(休日に当たるときを除く。)
	2 休日の翌日(土曜日、日曜日又は休日に当たるときを除く。)
	3 1月1日から1月4日まで及び12月28日から12月31日まで
	4 特別整理期間

2 所長は、必要があると認めるときは、前項の規定にかかわらず、臨時に同項に定める休館日に開館し、又は同項に定める休館日以外の日に休館することができる。

(入館の制限等)

第9条 所長は、埋蔵文化財センターを利用しようとする者が次の各号のいずれかに該当するときは、その入館を制限し、若しくは退館を命じ、又はその利用を中止させることができる。

(1) 公の秩序又は善良の風俗を乱すおそれがあると認められるとき。

(2) 施設、設備、備品等を損傷し、又は滅失するおそれがあると認められるとき。

(3) 所長が指定する場所以外において喫煙又は飲食をしたとき。

(4) 条例若しくは規則又は所長の指示に従わないとき。

(5) 前各号に掲げる場合のほか、埋蔵文化財センターの管理運営上支障があると認められるとき。

(資料等の館内利用)

第10条 館内において資料等を利用しようとする者は、資料等館内利用承認申請書(別記様式第1号)を所長に提出して、所長の承認を受けなければならない。

(資料等の館外貸出し)

第 11 条 次に掲げるものは、資料等の館外貸出しを受けることができる。

- (1) 国立の博物館、博物館法（昭和 26 年法律第 285 号）第 2 条第 1 項に規定する博物館及び同法第 29 条の規定により文部科学大臣又は宮崎県教育委員会が博物館に相当する施設として指定したもの
 - (2) 社会教育法（昭和 24 年法律第 207 号）第 21 条に規定する公民館
 - (3) 学校教育法（昭和 22 年法律第 26 号）第 1 条に規定する学校
 - (4) 国又は地方公共団体の設置する教育又は文化に関する調査研究機関
 - (5) 市町村立の歴史民俗資料館等で宮崎県教育委員会教育長（以下「教育長」という。）が定めるもの
 - (6) その他教育長が適当と認めるもの
- 2 資料等の館外貸出しの期間は、30 日以内とする。ただし、所長が特に必要があると認めるときは、これを延長し、又は貸出しの期間中であっても、当該資料等の返還を求めることができる。
- 3 資料等の館外貸出しを受けようとする者は、資料等館外貸出承認申請書（別記様式第 2 号）を所長に提出し、所長の承認を受けなければならない。
- 4 所長は、出土品その他の資料について前項の承認をしようとするときは、次の事項を確認しなければならない。
- (1) 貸出しを受ける目的が当該出土品その他の資料の保存及び活用にとって適切であること。
 - (2) 当該出土品その他の資料の保管、展示等を適切に行うための施設及び設備が整備されていること。
 - (3) 貸出しの期間中当該出土品その他の資料が適切な知識、技能を持つ者に取り扱われること。

(弁償)

第 12 条 入館者、館内利用者又は資料等の館外貸出しを受けた者は、資料等、設備又は備品を亡失し、破損し、又は汚損したときは、所長の指示に従い、その修理又は損害の賠償をしなければならない。

(委任)

第 13 条 この規則に定めるもののほか、埋蔵文化財センターの管理運営に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

(施行期日)

- 1 この規則は、平成 8 年 4 月 1 日から施行する。
(宮崎県総合博物館管理運営規則の一部改正)
- 2 宮崎県総合博物館管理運営規則（昭和 46 年宮崎県教育委員会規則第 4 号）の一部を次のように改正する。

(次のよう略)

附 則（平成 12 年 1 月 20 日教育委員会規則第 1 号）

この規則は、平成 12 年 1 月 20 日から施行する。

附 則（平成 12 年 3 月 31 日教育委員会規則第 8 号）

この規則は、平成 12 年 4 月 1 日から施行する。

附 則（平成 12 年 12 月 18 日教育委員会規則第 21 号抄）

(施行期日)

1 この規則は、平成 13 年 1 月 6 日から施行する。

附 則（平成 18 年 3 月 30 日教育委員会規則第 9 号）

この規則は、平成 18 年 4 月 1 日から施行する。

附 則（平成 19 年 3 月 30 日教育委員会規則第 3 号）

この規則は、平成 19 年 4 月 1 日から施行する。

附 則（平成 20 年 3 月 31 日教育委員会規則第 6 号）

この規則は、平成 20 年 4 月 1 日から施行する。

附 則（平成 26 年 3 月 27 日教育委員会規則第 2 号）

この規則は、平成 26 年 4 月 1 日から施行する。

附 則（令和 2 年 3 月 30 日教育委員会規則第 9 号）

この規則は、令和 2 年 4 月 1 日から施行する。

別記

様式第 1 号

(第 10 条関係)

様式第 2 号

(第 11 条関係)

資料等館内利用承認申請書

年 月 日

宮崎県埋蔵文化財センター所長 殿

住 所
申請者 氏 名
電話番号

〔法人にあつては主たる事務所の所在地、
名称及び電話番号並びに代表者の氏名〕

資料等の館内利用をしたいので、宮崎県埋蔵文化財センター管理規則第10条の規定により、次のとおり申請します。

館内利用の目的			
資料等の名称	形 状	数 量	備 考

資料等館外貸出承認申請書

年 月 日

宮崎県埋蔵文化財センター所長 殿

住 所
申請者 氏 名
電話番号

〔法人にあつては主たる事務所の所在地、
名称及び電話番号並びに代表者の氏名〕

資料等の館外貸出を受けたいので、宮崎県埋蔵文化財センター管理規則第11条第3項の規定により、次のとおり申請します。

館外貸出の目的			
資料等の名称	形 状	数 量	備 考
館外貸出期間	年 月 日から 年 月 日まで		

案内図

宮崎県埋蔵文化財センター

所在地 〒880-0212

宮崎県宮崎市佐土原町下那珂 4019

TEL 0985-36-1171 (代表・総務課)

0985-36-1172 (調査課)

FAX 0985-72-0660

ホームページ <http://www.miyazaki-archive.jp/maibun/>

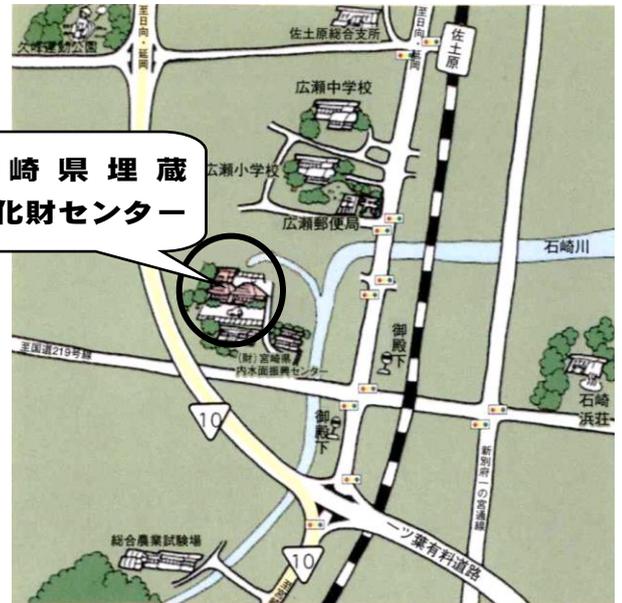
E-mail maizobunkazai-c@pref.miyazaki.lg.jp

アクセス

公共機関：JR 佐土原駅から車で 10 分

宮崎市街地から高鍋町方面宮崎交通バス

御殿下バス停 から徒歩で 8 分



宮崎県埋蔵文化財センター分館

所在地 〒880-0053

宮崎県宮崎市神宮 2 丁目 4-4

TEL 0985-21-1600 (普及資料課)

FAX 0985-26-2634

観覧時間 午前 9 時～午後 5 時

(入館は午後 4 時 30 分まで)

休館日 年末年始 (12 月 28 日～1 月 4 日)

特別整理期間

入館料 無料

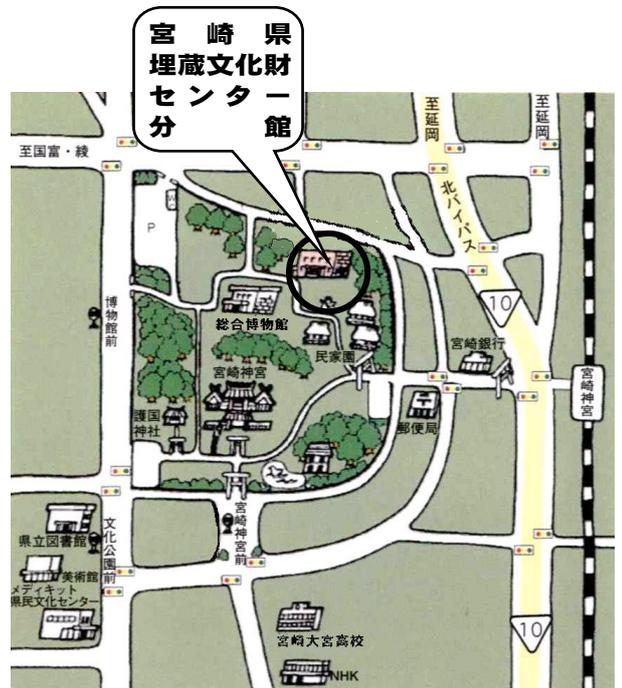
E-mail maibun-fukyu@pref.miyazaki.lg.jp

アクセス

公共機関：JR 宮崎神宮駅から徒歩で 10 分

綾・国富・平和が丘行き宮崎交通バス

博物館前バス停から徒歩で 2 分





宮崎県埋蔵文化財センター

〒880-0212 宮崎市佐土原町下那珂 4019 番地
TEL 0985-36-1171・1172 FAX 0985-72-0660
E-mail maizobunkazai-c@pref.miyazaki.lg.jp